

大塚製薬株式会社大宮支店に感謝状を贈呈

10月23日、工藤市長が大塚製薬株式会社大宮支店に感謝状を贈呈しました。

本市と同社は、平成25年3月に「健康づくりにおける相互応援に関する協定」を締結。同社はこれまで、熱中症予防対策や大豆を中心とした栄養学についての出前講座を積極的に開催してきました。これにより、市民の健康づくりに対する意識が向上し、今年の熱中症搬送者は昨年比で3割減少しました。出席した同社の増田佳二さんと竹下浩一さんは「引き続き、行田市民の健康づくり活動に協力していきたい」と抱負を語っていました。



古民家での演芸に魅了

11月7日、牧禎舎で忍城おもてなし甲冑隊のパフォーマンスを演出する野原のぼさんが企画したイベント「行田日和～家に寄ってくる?～」が開催されました。

この催しは、古民家を舞台に、集まった方々が懐かしさを感じながら、お茶の間で演劇などを楽しむというもの。市中にいる罪人を巡るストーリーに、来場者は目を離せませんでした。また、歌や詩吟なども披露され、行田の秋の夜に澄んだ歌声が響き渡りました。



地域防災力の向上を目指して

11月8日、県立総合教育センターで防災訓練が行われました。

今回の防災訓練は、今年の4月以降に自主防災組織を設立した地区およびこれから立ち上げようとしている地区の皆さんを対象にしたものです。訓練では、初期消火訓練や非常用発電機の操法などが行われた他、自主防災組織に関する講習も実施されました。地域防災力を高めることは、災害による被害を最小限に食い止め、地域の安全を確保できることを、参加者らは改めて認識しているようでした。



忍川をきれいに

10月25日、NPO法人ふるさと創生クラブと行田市民大学同窓会「忍川環境を見守る会」共催の「忍川クリーンアップ作戦」が行われました。

この作戦は、忍川の東橋から平成橋まで約1.5キロメートル区間の清掃活動を行い、子供たちが気軽に水辺で遊べる環境をつくること、そして、現在展開中の「川のまるごと再生プロジェクト」の主旨に賛同して実施されたものです。参加者らは、行田のシンボルである忍川がきれいとなり、市民の憩いの川となることを願いながら、清掃活動を行っていました。



写真館

GYODA CITY PHOTO STUDIO

勇壮な武者行列に感動

11月9日、市役所周辺で「第35回行田商工祭・忍城時代まつり」が開催されました。

今回のメインは、歴代忍城城主ら総勢約70人による武者行列。成田氏長、松平忠吉をはじめ、各時代の武将たちが掛け声とともに出陣し、居城である忍城へと向かいました。来場者は華やかな甲冑をまとった武将の勇壮な姿に魅了され、記念撮影をするなど、会場は大いににぎわいました。また、地元商工業者による浮き城のまち物産大バザールやスタンプラリー、さらには毎年恒例の火縄銃の演武が行われるなど、会場を訪れた全ての方が行田の秋を代表する祭りを満喫していました。



スポーツの秋を満喫

10月26日、総合公園自由広場で第64回市民体育祭が行われました。

昨年は雨により中止となりましたが、今年は天気にも恵まれ、絶好のスポーツ日和となりました。市内15地区から選ばれた選手たちは、青空の下、回旋フットボールリレーやバレーボール運び、玉入れや綱引きなどの競技に出場。自分の地区の優勝を目指して競技に臨み、観客も選手と同じ気持ちとなって、全力で応援していました。市民体育祭を通じて、スポーツの秋を満喫したことはもちろんのこと、地域の絆がより一層深まった大会となりました。



アートを身近に感じられるまちへ

11月8日・9日に、NPO法人C I Lひこうせんが「忍町アートギャラリー」を開催しました。

「行田の中心市街地をアート化したい」という思いで開催されたこのイベントに、市内外から28人のアーティストが参加。牧禎舎や行田地区内にある足袋蔵など16カ所に、さまざまな作品が展示されました。主催者の1人である野本翔平さんは「このイベントを機に、普段から芸術を身近に感じられるまちになってほしいですね」と今後のまちづくりに期待を寄せていました。

